

おくりがなプリント はってん①(もとの かたちにもどす) なまえ _____

小2/もとの 形に もどす(1/5) ひづけ _____

形が かわった ことばを もとの かたちにもどす

文の 中の かたち 丸めた → もとの かたち 丸める

もとの かたちを 声に 出して 言ってから、かん字の あとに おくりがなを 書く。

線の ことばを、もとの かたちにもどして かん字の あとに おくりがなを 書こう。

(1) この いえは 古くてくずれそうだ。

もとの かたち 古 _____

(2) てんきが 晴れている。

もとの かたち 晴 _____

(3) きのは ひとが とても 多かった。

もとの かたち 多 _____

(4) ボールを てで 止めた。

もとの かたち 止 _____

(5) えんぴつの しんを 太くする。

もとの かたち 太 _____

(6) せんせいの しつもんを 答えない。

もとの かたち 答 _____

(7) この こうえんは 広くて きもちが いい。

もとの かたち 広 _____

(8) まいにち がっこうに 通います。

もとの かたち 通 _____

(9) がっこうまで とても 遠かった。

もとの かたち 遠 _____

(10) 「いっしょに 走ろう」と いった。

もとの かたち 走 _____

(11) ともだちの いえが 近くなった。

もとの かたち 近 _____

(12) この みせは さかなを 売ります。

もとの かたち 売 _____

できたら:もとの かたちを 声に 出して、文の かたちと くらべて みよう。



おくりがなプリント はってん①(ない・ます・よう)

小2／ない・ます・よう の 形(2／5)

なまえ _____

ひづけ _____

同じ ことばを ない・ます・よう の 形に する

れい 合わせる(あわせる) ない 合わせない ます 合わせます よう 合わせよう

かん字の あとの おくりがなは、形が かわっても 「もとの かたちの おくりがなの はじまり」から 書く。

ことばごとに、ない・ます・よう の 形に なるように かん字の あとに おくりがなを 書こう。

もとの かたち

いまは なにも かんがえない。

考 _____

考える

ゆっくり かんがえます。

考 _____

(かんがえる)

みんなで いっしょに かんがえよう。

考 _____

もとの かたち

きょうは ごはんを つくらない。

作 _____

作る

あした カレーを つくります。

作 _____

(つくる)

みんなで ケーキを つくろう。

作 _____

もとの かたち

いまは ほんを よまない。

読 _____

読む

まいばん ほんを よみます。

読 _____

(よむ)

さあ、いっしょに よもう。

読 _____

もとの かたち

きょうは なにも かわない。

買 _____

買う

あした おかしを かいます。

買 _____

(かう)

さあ、みんなで かおう。

買 _____

できたら:3つの 形を 声に 出して、かん字の あとが どこから かわるか たしかめよう。



おくりがなプリント はってん①(ただしのは どれ?) なまえ _____

小2/ただし 書き方を えらぶ(3/5)

ひづけ _____

まちがいの 書き方は 2しゅるい

× おくりたりない … かん字の あとの おくりがなが たりない

×外て

× おくりすぎ … かん字が 読む ところまで ひらがなに してしまう

×外ずして

ただし 書き方:外して

文の _____に あう 正しい 書き方を 1つ えらんで、○を つけよう。

(1) ひが _____ なって きた。

(2) この やまは _____ きれいだ。

長いく

長がく

長く

高くて

高て

高かくて

(3) せんせいの おはなしを _____。

(4) ともだちと _____ なれて うれしい。

聞た

聞いた

聞きいた

親たしく

親しく

親く

(5) いそいで いえに _____ きた。

(6) この ノートは _____ きもちが いい。

帰って

帰えって

帰て

新くて

新しくて

新らしくて

(7) おかあさんと カレーを _____ いる。

(8) ちいさな こえて そう _____。

作くって

作て

作って

言た

言った

言いった

(9) あしたの ことを _____ いる。

(10) ゆうがたの ベルが _____。

思って

思て

思もって

鳴った

鳴た

鳴なった

(11) ひるの へやは とても _____。

(12) この すなは とても _____。

明かるかった

明かった

明るかった

細かいかった

細まかかった

細かかった

できたら:えらんだ 書き方を 声に 出して、文に あてはめて 読んでみよう。



おくりがなプリント はってん①(て・たの かたち)

なまえ

小2/うごく ことばの て・た形(4/5)

ひづけ

形が かわった ことばの おくりがなの 書き方

れい かみを まるめて すてる。

れい ボタンを はずした。

丸 めて

外 した

考え方

れい1

れい2

- ① もとの かたちにもどす
- ② もとの かたちで おくりがなが はじまる ところを 見つける
- ③ そこから あとを ぜんぶ ひらがなで 書く

まるめる

はずす

↓
丸める

↓
外す

↓
丸めて

↓
外した

線の ことばの かたちに なるように、かん字の あとに おくりがなを 書こう。

(1) こわれた とけいを なおして みる。

(2) ここに なまえを かいて ください。

直

書

(3) みんなで やまみちを ある いた。

(4) つなを いっしょに ひいて いる。

歩

引

(5) きノウ おかしを かった。

(6) こうえんを みんなで はしって いる。

買

走

(7) はさみで かみを きった。

(8) えきで ともだちと あって から いく。

切

会

(9) よるの そらで ほしが ひかった。

(10) しずかに ほんを よんで いる。

光

読

(11) ひるごろ あめが やんだ。

(12) おじいさんに こまを おそわった。

止

教

できたら:こたえを 声に 出して 読み、線の ことばと 同じ 読みになるか たしかめよう。



おくりがなプリント はってん①(ぶんしょうの なかで) なまえ _____

小2／ぶんしょうの 中で 書く(5／5)

ひづけ _____

ぶんしょうの 線の ことばの かたちになるように、下の 番ごうの 線に おくりがなを 書こう。

1 おつかい

ゆうがた、わたしは いもうとと こうえんまで ① あるいて いった。そこで ともだちに

② あった。みんなで つなを ③ ひいた。そらを みると、ほしが ④ ひかって いた。

① 歩 _____ ② 会 _____ ③ 引 _____ ④ 光 _____

2 じゅぎょうの じかん

せんせいの おはなしを ⑤ きいて、ひもを もらった。ひもは すこし ⑥ ふとくて

じょうぶだ。はさみで ⑦ きって みじかく した。そのあと ベルが なって、みんなで いえに

⑧ かえった。

⑤ 聞 _____ ⑥ 太 _____ ⑦ 切 _____ ⑧ 帰 _____

3 となりの おばあさん

あの ころ、わたしは となりの おばあさんと とても ⑨ したしかった。あさ、まどを あけると

へやが ⑩ あかるく なった。おばあさんの にわは はなが ⑪ おおくて

きれいだ。わたしは おれいを どう いおうか ⑫ かんがえて いた。

⑨ 親 _____ ⑩ 明 _____ ⑪ 多 _____ ⑫ 考 _____

できたら:ぶんしょうを はじめから 声に 出して 読み、書いた おくりがなで 読みが 合うか たしかめよう。



おくりがなプリント はってん①(もとの かたちにもどす)【こたえ】 なまえ _____

小2／もとの 形に もどす(1／5) ひづけ _____

形が かわった ことばを もとの かたちにもどす

文の 中の かたち 丸めた → もとの かたち 丸める

もとの かたちを 声に 出して 言ってから、かん字の あとに おくりがなを 書く。

線の ことばを、もとの かたちにもどして かん字の あとに おくりがなを 書こう。

(1) この いえは 古くてくずれそうだ。

もとの かたち 古 い

(2) てんきが 晴れている。

もとの かたち 晴 れる

(3) きのは ひとが とても 多かった。

もとの かたち 多 い

(4) ボールを てで 止めた。

もとの かたち 止 める

(5) えんぴつの しんを 太くする。

もとの かたち 太 い

(6) せんせいの しつもん 答えない。

もとの かたち 答 える

(7) この こうえんは 広くて きもちが いい。

もとの かたち 広 い

(8) まいにち がっこうに 通います。

もとの かたち 通 う

(9) がっこうまで とても 遠かった。

もとの かたち 遠 い

(10) 「いっしょに 走ろう」と いった。

もとの かたち 走 る

(11) ともだちの いえが 近くなった。

もとの かたち 近 い

(12) この みせは さかなを 売ります。

もとの かたち 売 る

つまずきやすいところ

もどした あとの 送りがなは「もとの かたち」の 送りがな(古い→い、晴れる→れる)。活用形を そのまま 書かせない。
ない・ます・よう や かった・くて の 形も、もとの 形では 同じ 語に なる。

採点：漢字の あとの 送りがなだけで 正(もとの 形全体の ひらがなは 書かなくて よい)。

おくりがなプリント はってん①(ない・ます・よう)【こたえ】

小2／ない・ます・よう の 形(2／5)

なまえ _____

ひづけ _____

同じ ことばを ない・ます・よう の 形に する

れい 合わせる(あわせる) ない 合わせない ます 合わせます よう 合わせよう

かん字の あとの おくりがなは、形が かわっても 「もとの かたちの おくりがなの はじまり」から 書く。

ことばごとに、ない・ます・よう の 形に なるように かん字の あとに おくりがなを 書こう。

もとの かたち

ない いまは なにも かんがえない。

考 えない

考える

ます ゆっくり かんがえます。

考 えます

(かんがえる)

よう みんなで いっしょに かんがえよう。

考 えよう

もとの かたち

ない きょうは ごはんを つくらない。

作 らない

作る

ます あした カレーを つくります。

作 ります

(つくる)

よう みんなで ケーキを つくろう。

作 ろう

もとの かたち

ない いまは ほんを よまない。

読 まない

読む

ます まいばん ほんを よみます。

読 みます

(よむ)

よう さあ、いっしょに よもう。

読 もう

もとの かたち

ない きょうは なにも かわない。

買 わない

買う

ます あした おかしを かいます。

買 います

(かう)

よう さあ、みんなで かおう。

買 おう

つまずきやすいところ

作らない・作ります・作ろう … おわりの 音は あ・い・お とかわるが、漢字は「作」のまま。

考えない・考えます・考えよう … 音は かわらず、もとの 送りがなの 「え」から 送る。

採点：線の はんいだけで よい(文の おわりの 「。」までは 書かなくて よい)。

まちがいの 書き方は 2しゅるい

× おくりたりない … かん字の あとの おくりがなが たりない

×外て

× おくりすぎ … かん字が 読む ところまで ひらがなに してしまう

×外ずして

ただし 書き方:外して

文の _____ に あう ただし 書き方を 1つ えらんで、○を つけよう。

(1) ひが _____ なって きた。

長いく

×おくりすぎ

長がく

×おくりすぎ

長く

(2) この やまは _____ きれいだ。

高くて

×おくりたりない

高て

高かくて

×おくりすぎ

(3) せんせいの おはなしを _____。

聞た

×おくりたりない

聞いた

聞きいた

×おくりすぎ

(4) ともだちと _____ なれて うれしい。

親たしく

×おくりすぎ

親しく

親く

×おくりたりない

(5) いそいで いえに _____ きた。

帰って

帰えって

×おくりすぎ

帰て

×おくりたりない

(6) この ノートは _____ きもちが いい。

新くて

×おくりたりない

新しくて

新らしくて

×おくりすぎ

(7) おかあさんと カレーを _____ いる。

作くって

×おくりすぎ

作て

×おくりたりない

作って

(8) ちいさな こえて そう _____。

言た

×おくりたりない

言った

言いった

×おくりすぎ

(9) あしたの ことを _____ いる。

思って

思て

×おくりたりない

思もって

×おくりすぎ

(10) ゆうがたの ベルが _____。

鳴った

×おくりたりない

鳴た

鳴なった

×おくりすぎ

(11) ひるの へやは とても _____。

明かるかった

×おくりすぎ

明かった

×おくりたりない

明るかった

(12) この すなは とても _____。

細かいかった

×おくりすぎ

細まかかった

×おくりすぎ

細かかった

つまずきやすいところ

おくりたりない=高て・聞た(2字目から 落とす)。おくりすぎ=長いく・長がく(読みの 一部まで 送る)。
書かずに 選ぶ 枚(書く 負担は 小さい。目で たしかめる 枚)。正しい 書き方 の 位置は 毎問 かわります。
採点:○が 正しい 1つについていれば 正。長い・短い だけで 決めさせない。

形が かわった ことばの おくりがなの 書き方

れい かみを まるめて すてる。

れい ボタンを はずした。

丸 めて

外 した

考え方

れい1

れい2

① もとの かたちにもどす

まるめる

はずす

② もとの かたちで おくりがなが はじまる ところを 見つける

丸める

外す

③ そこから あとを ぜんぶ ひらがなで 書く

丸めて

外した

線の ことばの かたちになるように、かん字の あとに おくりがなを 書こう。

(1) こわれた とけいを なおして みる。

(2) ここに なまえを かいて ください。

直 して

(もと：直す)

書 いて

(もと：書く)

(3) みんなで やまみちを あるいた。

(4) つなを いっしょに ひいて いる。

歩 いた

(もと：歩く)

引 いて

(もと：引く)

(5) きのう おかしを かった。

(6) こうえんを みんなで はしって いる。

買 った

(もと：買う)

走 って

(もと：走る)

(7) はさみで かみを きった。

(8) えきで ともだちと あって から いく。

切 った

(もと：切る)

会 って

(もと：会う)

(9) よるの そらで ほしが ひかった。

(10) しずかに ほんを よんで いる。

光 った

(もと：光る)

読 んで

(もと：読む)

(11) ひるごろ あめが やんだ。

(12) おじいさんに こまを おそわった。

止 んだ

(もと：止む)

教 わった

(もと：教わる)

つまずきやすいところ

直て・書て のように、もとの 形で 送る 字まで 落とす まちがいが 多い。

もとの 形を 声に 出して、送りがなの はじまりを たしかめさせます。

採点：線のはんいだけで よい(あとにつづく ことばまで 書いても 送りがなが 正しければ 正)。

ぶんしょうの 線の ことばの かたちになるように、下の 番ごうの 線に おくりがなを 書こう。

1 おつかい

ゆうがた、わたしは いもうとと こうえんまで ① あるいて いった。そこで ともだちに
② あった。みんなで つなを ③ ひいた。そらを みると、ほしが ④ ひかって いた。

① 歩 いて ② 会 った ③ 引 いた ④ 光 って

2 じゅぎょうの じかん

せんせいの おはなしを ⑤ きいて、ひもを もらった。ひもは すこし ⑥ ふとくて
じょうぶだ。はさみで ⑦ きって みじかく した。そのあと ベルが なって、みんなで いえに
⑧ かえった。

⑤ 聞 いて ⑥ 太 くて ⑦ 切 って ⑧ 帰 った

3 となりの おばあさん

あの ころ、わたしは となりの おばあさんと とても ⑨ したしかった。あさ、まどを あけると
へやが ⑩ あかるく なった。おばあさんの にわは はなが ⑪ おおくて
きれいだ。わたしは おれいを どう いおうか ⑫ かんがえて いた。

⑨ 親 しかった ⑩ 明 るく ⑪ 多 くて ⑫ 考 えて

つまずきやすいところ

線の ことばは かなで 見える ので、もとの 形を 先に 思い うかべさせ、漢字の あとの はじまりを たしかめさせます。
答えは 文章の 下の 番ごうの 欄に 書く。となりの ひらがなの 部分は 採点に 入れない。

採点：線の はんいだけで 正（文章を 声に 出して 読み、読みが 合うか たしかめさせます）。